

「千代田」の「春」

満開！

会長 鈴木 精成

千代田岳精会の「春」は、四月廿七日（日）に正に「満開」になりました。今年の「昇伝審査会」がこの日、九一名の受審者の明るさ一杯の熱気の中、開催され、例年のことながら、緊張の中にも「やることはやってきた」との自信に溢れた様子が会場に満ち満ちて。いい一日の幕開けでした。昇伝審査受審の方々の人数は、このところ毎年廿名位づつ増えて、今年も昨年比廿名増の盛況でした。このうち、初めて審査を受けた方が三六名にのぼり、フレッシュさを現出していました。

院吟日本流精岳

ちよあ

第 4 8 号

平成 2 6 年 5 月

千代田岳精会弘報

平成廿六年岳精流指標

本 氣

当日の審査をお願いした指導本部員杉江精寛、山城精和両先生には、ハイドスケジュールをお願いして、申し訳なく、心から感謝申し上げます。申し訳さん先生のワンポイントアドバイスは皆なるのこれからの吟道精進に大きな力になると思えます。日く、「ゆり止め」日く、「山」そして「発声」「呼吸」「アクセント」等々大事なことの気付きがあつたと思えます。次の前進に生かして下さい。

今回の審査受審の方々の内訳を見ますと、初受審者の他に、級二段の方が七九名、初伝五段（山号）の方が四八名、中伝五段（山号）の方が廿六名を数え、合わせますと一九一名となり、千代田の「春」の主役であり、これからの千代田を支え、引っ張っていただく力です。

平成十九年以降、十六か所の新しい教場拠点がスタートし、今日に至つており、このそれぞれの拠点が、先輩教場とともに、今年から「教場」として独立歩の一步を踏み出してまいす。勿論、まだ完璧な運営体制が出来ていないとは思いますが、各教場長を中心として、活気ある教場づくりを励んで頂くようお願いいたします。中には、決して順調な歩みを進めていず、申せない実態もあるとは思いますが、我が「教場」を皆で育てていきましよう。

六月十五日（日）は、「全国吟道大会 in 三河」です。千代田からは百廿名余の吟友が参加し、大会の感激を体験することになっております。この進の貴重な財産になるものと確信いたしてまいります。

十月十四日（火）と廿一日（火）には、会の教場を二つのグループに分けての「千代田岳精会温習会」が開催されることになっており、目下関係のメンバーの企画打合せが進められていきます。皆さんの吟詠機会を多くしたいとの願いからの企画ですので、ご理解とご協力をお願いいたします。

新聞のコラム欄にこんな記事が出ていました。アメリカの詩人ウルマンの作品「青春」（飯田前会長からよく教わりました）の中に「青春とは、人生のある期間ではなく、心の持ちかたを言う」：「年を重ねただけで人は老いない。理想を失うとき初めて老いる」と。私たちは吟友に「老いを感じていない人はいないのでは」と思っています。同コラム欄からもう一言。「お若く見えますね」と言われたら、歳をとったなと言われていると思え」（アメリカ随筆家アービングの言葉）。（アメリカ随筆家アービングの言葉）。



星野久風（清水）

春の昇伝審査

薫風のなか高らかに吟じました



代々木の杜のしたたるような緑の中
 今年春の昇伝審査が東郷神社水交會
 で開催された。萌えたつ若葉が水面に
 映える、旧日本海軍の聖地東郷神社の
 敷地にある建物は、海軍兵学校最後の
 生徒であった高橋辰風前鎌倉教場長が
 現役時代に一級建築士として施工に当
 たった、わが会とも所縁の深い会場で
 す。山城精和研修運営部長、杉江精寛
 下田岳精會會長を審査員にお迎えし、
 今年の受審申し込み者百九十一名が丁
 寧な審査と熱気溢れるご指導を頂きま
 した。お一人百人に近い審査と講習お
 疲れのことと思ひます。有難うござい
 ました。

初伝昇伝者

丸の内第二

小山 洋泉

鎌倉

上村 逸泉

桜ヶ丘

藤谷 薫泉

東陽町

武藤 弘泉

調布

藤村 惠泉

志茂

宮野 幸泉

中野

江崎 亮泉

同

高橋 桃泉

同

村井 美泉

同

細川 修泉

同

三好 弘泉

同

小好 正泉

同

櫻田 謙泉

同

原口 美泉

同

鈴木 秀泉

同

草間 朱泉

同

二反田 奉泉

同

坂下 光泉

同

宇田川 静泉

同

横手 英泉

同

垂井 隆泉

雅号「泉」を頂いて

丸の内第二

上村 逸泉

新 同

新 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

今年昇伝審査吟題を頂いて、初伝
 吟題が指定であることを知りまし
 吟題の漢詩を覚えなければと、岩崎先
 両方の漢詩の指導の通り、素読千回と励
 生の普段の指導の通り、素読千回と励
 う、結局は心配した通り、絶句してし
 まい、結局は心配した通り、絶句してし
 とを痛感しました。まだまだ足りなかつたこ
 云、高校の同窓会である「てんがらもん
 練習が週一度の木曜日に詩吟の勧誘を受け
 入

会したのが平成廿二年十一月、はや四
 年が過ぎました。夢中でした。始め
 まだよちよちで、コンダクターを習い始め
 に、皆様の前で伴奏するのは、非常に
 緊張します。不十分で吟友の皆様には
 申し訳なく思っておりです。こんな状
 態で漢詩の勉強も不十分です。こんな状
 に思います。益々励めたいのかと恐縮
 ります。鈴木會長始め、山口教場長、幹部の
 皆様、今後とも宜しくご指導の程お願
 いたします。

初伝審査に合格して

東陽町 宮野 幸泉

この度、水交社で山城精和先生の昇
 伝審査を受け、無事初伝に合格し、雅
 号を頂ける事になりました。ご指導頂
 きました諸先生方に感謝申し上げます。
 詩吟を習い始めの頃は、声に幅が無
 く腹からの声が出なくて、先生方から
 腹式呼吸を使うように指導されていま
 したのが、中々コツがつかめず、今一
 納得のいく声が出ませんでした。又教
 室の先輩方が初伝審査の頃になると吟
 声の朗々と成って行くのに驚いてどん
 な秘密の練習方法が隠されていたのだ
 ろうかと思っておりました。自分も腹
 式呼吸を意識しながら日々発声練習を
 やっている内に今年に入ってから多少
 声が出るようになって来たかなと感じ
 るようになった。山城先生に「声は
 中々作れませんが、腹式呼吸で前に吐
 き出し、水道のホースの要領で遠くへ
 の時は大きな声を出すようにして声作

鳴の「支点」を理解して吟じるように、と指摘されました。日頃、先生方から指導を受けていたながら、母音の発声練習を怠ってしまいました。これから、反復練習をしなければと反省しています。復練から、吟の道は険しいですが、所属教場の月六回の研修会や吟行会、千代田岳精会の研修会や温習会、岳精流日本吟院の研究会や全国吟道大会、港区吟詠コンクールなどに参加し、研鑽を積み、宗家の教え、鈴木会長、磯田先生、岩崎先生、村上先生、徳本先生のご指導と、諸先輩、吟友のご支援の下で、活気溢れる「楽しい教場」をつくり、吟力の向上を目指して、精進していきたいと思っております。

初伝審査を終えて

志茂 村井 美泉

新緑まぶしい四月廿七日、昇伝審査がありました。四月廿七日、昇伝審査が吟に巡り会って四年、昇伝審査も今日で四度目になります。のやはりに余裕がありませぬ。早く無事に終ります様に、また間違えずに出来ませぬ様に、審査が終り「吟題も吟の内、しつかり読むように」と講評を頂きました。いつも、何回も教えていた来ています。すのになかなか思うように出来ませぬ。本当に情けなく思われます。いつかかりました吟を楽しく吟じられたらと思っております。

今回は、また雅号の「泉」を頂けると言われ、本当に嬉しく思います。名前にも恥じぬよう精進したいと思っております。いつも先生方、そして熱心に指導して下さいます。吟友の皆様、感謝しつつ、これから

らも吟の道を一步一步進んで行きたいと思えます。今後とも、宜しく願います。

雅号「秀泉」を拝受して
逗葉 鈴木 秀泉

詩吟を始め、五年目に入っています。音感の鈍い私が初伝審査に合格し、雅号を拝受出来たことは、縁を得て多くの先生、先輩と出会い、良き指導を頂いたお陰であり感謝の念を新たにし、気持ちを一つ引き締めたところです。詩吟教室を地元で探して、平成廿二年正月の日に詩吟のデモを報じた市広報が飛びこんできました。平成廿二年正月で、早稲子プラザ内の会場に向き、実演中の詩吟詩舞を見学しました。正言、舞の稽古には関心が湧かず、煌びやかな舞台衣装にのみ目移りして、いままの一段落して伴奏が力セツトから流れてきた瞬間、私の神経は吟詠の調べに釘づけにされてしまいました。調べに釘づけにされてしまいました。探し求めていた詩吟と教室に出会えて、詩吟を習おうとその時に決めました。小林龍舟先生とこのCDとの出会いが私を詩吟へ押し込んだ。詩吟教室に入会して、小林龍舟先生の詩吟教室に入会して、二月に男性の先生に発声に悩んでいた私に、男性の先生に来て頂く提案がありました。下さった故宮武保風先生のお陰で私の発声、音程は改善されました。この時の縁で、清水教場逗葉分室開設に合わせ、平成廿二年五月に転籍させ、足運び合せて、現在清水教場にも、に励んでいきます。この転籍で新たに多自の先生からご指導を頂くことが出来

に先生の批評を交えて数多く接し、自分の吟詠に照らして、良くも悪くも反映できる事を覚え取獲になりました。今では一本で仲間との合吟に参加出来る喜び、更なる向上を目指します。

全国吟剣詩舞道大会

郡山大会三位入賞

毎年十一月に日本武道館で開催されていた合吟コンクールが、諸般の事情で中止され、年が改まった二月廿三日、東日本大震災の復興を願って福島県郡山市のユラックス熱海で「美し国」ふるさとを讃う」として開催され、全国から三十七チームが参加した。今回から、一チーム三十五名となり、千代田からも選抜出場男子チームは大健闘、見事三位に入賞トロフィーを獲得しました。三年前の二位に続く快挙でした。なお、天童王将女子も七位に入賞されました。

第四五回全国吟剣詩舞道大会
合吟コンクールに参加して

神田 平井 茂行

私は二月廿三日、福島県郡山市で開催された、通称郡山全国合吟コンクール大会に出場させて戴きました。池田教場長から「貴方の新参者でしたが、よ」と言う強いお勧めもあり、不安感もありました。千代田の仲間が多かったのが、折にふれ励ました。鈴木会長、諸先生方も強く嬉しかったです。練習は熱血漢

佐藤精堂副幹事長の厳しくも懇切丁寧なご指導のもと、九月から二月の出発直前まで月二回、計十二回、更に出発当日の結団式の前、郡山へ向かう二カ所のパークキングで野中リナー以下三十五名、最後まで一生懸命練習いたしました。

私は最初、合吟は三十五分の一といふ気楽な考えでしたが、直ぐに一分の三十五という考えに改めました。独吟の失敗は一人だけで済みますが、合吟でのひとりみの失敗は全員の失敗となるという恐さも十分理解しました。

今回のチームは初出場者も多かった。練からの徹底的に鍛えて下さいました。先生の苦勞は察して余りありません。また、家吉幹事長、園田副幹事長が常にサポートして下さいました。室内だけでは声が反響するので寒風吹く野外での練習も良い思い出となりました。宗家、佐藤先生はじめ総本部の先生方に熱意溢れるご指導を戴き、又、実家の千代田岳精会に色々サポートして戴き、これで駄目な成績だったらどうしようかと不安でしたが、成績発表で三位と聞いたときは、ホッと致しました。



吟剣詩舞道吟詠コンクール 出場者実力を発揮

新会員の増加が現れる形で、今年の出場者は品川四三名、港区五七名と百名を超えた。これは会員数の三分の一に及び千代田の勢いが現れたと言えま

三部	二部	港区 少年区 (三月廿二日)	三部	一部	品川区 (三月廿一日)
四位	二位	優秀賞	二位	三位	三位
優勝	一位	優秀賞	優秀賞	七位	四位
十位	八位	優秀賞	優秀賞	十位	五位
十三位	六位	優秀賞	優秀賞	十四位	六位
十二位	五位	優秀賞	優秀賞	入住	七位
十一位	四位	優秀賞	優秀賞	松本	八位
十位	三位	優秀賞	優秀賞	森山	九位
九位	二位	優秀賞	優秀賞	中野	十位
八位	一位	優秀賞	優秀賞	石井	十一位
七位	優秀賞	優秀賞	優秀賞	陽泉	十二位
六位	優秀賞	優秀賞	優秀賞	仙泉	十三位
五位	優秀賞	優秀賞	優秀賞	清徳	十四位
四位	優秀賞	優秀賞	優秀賞	章徳	十五位
三位	優秀賞	優秀賞	優秀賞	藤山	十六位
二位	優秀賞	優秀賞	優秀賞	舞山	十七位
一位	優秀賞	優秀賞	優秀賞	榎代	十八位
優秀賞	優秀賞	優秀賞	優秀賞	康山	十九位
優秀賞	優秀賞	優秀賞	優秀賞	龍琴	二十位
優秀賞	優秀賞	優秀賞	優秀賞	茂行	廿一位
優秀賞	優秀賞	優秀賞	優秀賞	鎮徳	廿二位
優秀賞	優秀賞	優秀賞	優秀賞	帆靖	廿三位
優秀賞	優秀賞	優秀賞	優秀賞	帆靖	廿四位
優秀賞	優秀賞	優秀賞	優秀賞	帆靖	廿五位
優秀賞	優秀賞	優秀賞	優秀賞	帆靖	廿六位
優秀賞	優秀賞	優秀賞	優秀賞	帆靖	廿七位
優秀賞	優秀賞	優秀賞	優秀賞	帆靖	廿八位
優秀賞	優秀賞	優秀賞	優秀賞	帆靖	廿九位
優秀賞	優秀賞	優秀賞	優秀賞	帆靖	三十位

昨年三月、中野教場を見学した折、先生方、また諸先輩のご健吟に感動して入会以来、はや一年が過ぎ、今回のコンクールへの出場は「新人の務め」と勝手に思い込み深く考えないまま出場しました。ところが、成績発表で九位入賞、都大会への出場と聞き「エッ」と困惑しながら「帰り道、教場の皆さんと一杯やりながら、落ち着きを取り戻しました。まあ、これも最初で最後の機会と、思い人生経験の一つと考え、都大会への出場を覚悟する気になれたのは、二、三日後の事でした。

今回、この幸運に恵まれましたのも、常日頃から懇切丁寧にご指導を頂いて、徳本先生、村上常任顧問、教場の皆様、また千代田岳精会の会長、並びに各先生方のお陰様と心から感謝申し上げます。

上げます。これからは、先生方のご指導を念頭に精進して、詩吟を楽しまたいと思ひます。宜しくお願い致します。

港区吟詠コンクールに初出場して
中野 矢崎 春男

廿五位	廿四位	廿三位	廿二位	廿一位	二十位	十九位	十八位	十七位	十六位	十五位	十四位	十三位	十二位	十一位	十位	九位	八位	七位	六位
森田	小島	橋本	洪谷	萩原	本田	滝澤	宮野	鎌野	櫻田	八田	石田	中内	博山	勝山	仁風	謙進	国雄	幸雄	春泉
準泉	正弘	隆泉	辰風	晴風	親泉	春泉	幸雄	国雄	謙進	仁風	勝山	博山	博山	勝山	仁風	謙進	国雄	幸雄	春泉
(丸二)	(中野)	(神楽坂)	(銀座)	(ハザマ)	(丸二)	(ハザマ)	(東陽町)	(丸二)	(中野)	(丸二)	(丸二)	(ハザマ)	(ハザマ)	(ハザマ)	(丸二)	(丸二)	(丸二)	(丸二)	(丸二)

『新会員紹介』

◇丸ノ内第二支部教場
齋藤 早苗さん(一月入会)

軽い気持ちで飛び込んだ詩吟の世界、三か月で昇伝に挑戦している。重圧と戦っています。押し潰されそうですが心の中では少しづつ楽しんで、自分の見えてきました。山口で、教場長始め諸先輩方々のお陰と感謝して、お礼を申し上げます。今後は心と身体を健康維持に勤め精進してまいります。

坪川 稔氏(二月入会)

私、生まれも育ちも東京は中野です。昨年九月に、四十年間勤務した会計事務所を定年退職致しました。二月入会、四月昇伝審査、選んだ吟題は「坂本龍馬を思う」です。龍馬は日本海軍の礎を築いた一人と言われている。水交社で、この詩を吟ずることが出来るのは！龍馬ファン冥利につきます。合祀されています。神社に参詣するつもりです。

西村 邦男氏(一月入会)

若き親友、名倉さんのお勧めで草加教場に伺い、岩崎先生のお勧めで指導に心を奪われて、一月に入会しました。太田教場長の温かい労わり、生活の潤いのため、分相応に健康と世界の一端に触れたいと願っています。

◇丸ノ内第二日暮里教場
権藤 紘一氏(五月入会)

この度、五月一日付けで約二年振り、この度、第二日暮里教場に再入会させて頂きました。この三月で仕事も辞め、折角親しくなった諸先輩と一緒に、もう一度詩吟を楽しみたい。というのが再入会の動機です。どう

ぞ宜しくお願い致します。
◇丸ノ内第二鎌倉教場
八幡 通正氏(八月入会)

夏から入会致しました八幡です。ヤハタではなくヤワタです。六月の近く、行政センターの講座に参加しました。講師の皆様、朗々たる声に感銘を受けました。詩吟は初めてです。すが丹田から声が出るように練習して、いくつも出せるように練習

安田 正氏(十二月入会)

今年、あるご縁で入会させて戴きました。宜しくお願ひ致します。七歳でリタイア後四年、各種サークルに属し活動していましたが、五十が心に残っていて一度経験したいと思つていました。音程、発声、息継ぎ、吟譜、詩情等、戸惑うばかりの処、六回の練習で昇伝審査を受ける事になり、唯々驚きの日々ですが、覚悟し、一期一会の気持ちで臨みたいと思つています。

高汐 一枝さん(四月入会)

看護師長である藤村恵泉さんから教室に宗家が来られるからと、見学を勧められ、伺いました。そこで、宗家の詩吟、お話、人柄に釘付けになりました。また、教場の先生、先輩の方の優しさ、楽しさ、笑顔で入会を決めました。先輩の皆さんのように詩吟が出来よう頑張りますので、ご指導をお願い致します。

西川 元規氏(四月入会)

丸ノ内清流教場
雅巳氏から詩吟を習い始めた事を見聞きしました。私も興味があり教場を見に行き、即入会させて頂きました。

菅原 米子さん(二月入会)

東陽町銀座教場
紹介で入会致しました。油彩教室のお仲間、油彩展の開催中、同受付担当の本荘さんから詩吟を勧められました。漢詩の勉強や吟詠にも多少の興味を持つておりましたので、お世話になることに致しました。お発声のことが、今後とも宜しく願ひします。

浪久 昌大氏(十二月入会)

東陽町神楽坂教場
青春が過ぎ、中年が過ぎ、老齢期に入つた今、これから仲良く手を携えて、一日を大切に生きて行かなければと考へた。主人が一時猛烈に練習した。ネットを又学んでみないか誘った。悩みをしました。沢山の仲間、心知れた良い仲間、二日は、教室で褒められて、その気になつた。家の癖が抜けて、練習して、前の流派の癖が抜けて、練習して、行こうと考へて、おら、本番、頑張り、お願ひいたします。

金城 明子さん(四月入会)

私は、沖繩生まれ沖繩育ち、廻りの仲間はその人達が多い。生粋の沖繩の踊りに興味を持ち、渡嘉敷守流東京保存会へ進み現在に至っている。自然とその心技を継承する為努力してきたが、他の趣味にも興味がわき、ネットを見たら神楽坂詩吟があつた。入会して二か月も経たないで勇気をだし、昇伝審査に臨み、吟じ終わり、その出来栄えに自分なりに感激した。仲間を既に二人ゲット、共に楽しく練習する喜びを感じた。

奥居美和子さん(四月入会)

先輩金城明子さんに誘われ、沖繩芸能を頑張っており、第二の人生に喜びを感じていたが、今度は詩吟に誘われた。ためらっては見たが先輩の勇気ある行動に感化され、昇伝審査に付合ひ金城さんの出来に感激し何となく自信が湧いてきた。これからは共に仲良く頑張り、沖繩舞踊そして詩吟にも力を注ごう。先ずは五月十五日の横浜鶴見文化センターの沖繩芸能保存会六十六周年に向かつて、沖繩の光と風の公演を成功させ、次は詩吟と考えております。

飯塚 治夫氏(四月入会)

私は幼少の頃から伝統芸能に関心があり浪曲等の和芸に親しんで参りました。この度詩吟と言う古典芸能を勉強する機会を得られ本当に嬉しく思っております。戦後、欧米文化の受容が先行し日本文化の理解が後退しました。が、日本人の喜ばしいアイデンティティを世界へ発信する位の意気込みで精進したい所存でございます。宜しくお願い致します。

◇東陽町調布教場 増谷 和子さん(四月入会)

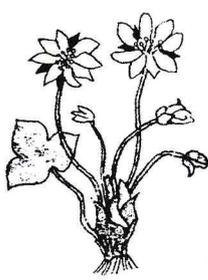
荒井彩山さんの紹介で入会させて頂きました。以前、荒井さんの勤め先の事務員をしておりました。先日趣味のコースラス練習の帰り、偶然荒井さんにお会いしました。詩吟教室入会のお勧めを戴きました。何かシツカリした趣味を持ちたいと思つていましたので、調布教場にお邪魔致しました。教場の皆さんも楽しんで学んでおられ、漢詩や詩吟の勉強も深みがあり、入会させて頂きました。宜しくお願い致します。

◇ハザマ教場 駒田 秀夫氏(二月入会)

一、趣味 ゴルフ・将棋・ハイキング。二、詩吟への抱負 精一杯声を出して吟じる。三、入会の動機 近隣の友人である加藤虎風様の紹介で入会いたしました。以上の様な事を旨としまして千代田岳精会の会員の皆様と詩吟を楽しみたいと思っております。

◇ハザマ新設教場 竹森 二郎氏(二月入会)

大学時代に一度は始めようと思いつたが、四十数年の時を数え偶々に詩吟に再会し意を決して入会。趣味も囲碁、ゴルフ、麻雀等何れも五段階と自負あるも、白黒決着のある事を象を離れての時間に肺活量増大に期待。吟の上達と同様に肺活量増大に期待。



◆稲垣 龍藤さん(丸ノ内第一)

三月廿二日ご逝去されました。享年九十二歳。謹んでご冥福をお祈りいたします。

◆柏崎 秀泉さん(鎌ヶ谷)

五月三日ご逝去されました。享年七十四歳。謹んでご冥福をお祈りいたします。

編集後記

「ちよだ」編集のパソコン移行に伴い、操作を担当する事になっていたN弘報スタツフが、遠方への転居で引継ぎが白紙に戻り、本号の発行対応に追われまして。彼から提供をうけたワipro東芝ルポを駆使、編集出来るようになる時間的余裕は無く、前の機種と同じ物をバックアップ用にと昔先輩から提供を受けた年季物のワープロを開いてみました。何とか動いてくれていては故障した時点で編集機能麻痺という危険を抱えています。五月の幹事会で現状を説明し、パソコン編集の協力要請のところ手を挙げ、て下さった会員があり、次号の編集に間に合うよう早めの引継ぎを進めたいと思っております。

六月十五日、刈谷で開催の全国吟道大会は全国から千二百余の会員が参加します。千代田からは、その一割となる吟友が参加申込みをしており、吟楽部門が色々手配の労を引き受けてくれるいたします。毎年、地方から参加される会員さんのご苦勞を感謝してまいります。今年は大いに盛り上げて三河岳精会のお役にたちましよう。(八田)